

令和5年度 第3回 こども部会 会議録

【日 時】 令和5年10月11日(水) 13:30~15:00 つるぎ町就業改善センター2階研修室

【参加者】 西部こども女性相談センター、池田学園、池田支援学校美馬分校、美馬市長寿障がい福祉課
美馬市こどもすこやか課、美馬市教育委員会、つるぎ町福祉課、つるぎ町保健センター
つるぎ町教育委員会、児童デイワンハート穴吹、障害者支援センター小星園
障害者支援センターかしかおか、こども発達支援事業所イノセント、相談支援センターイノセント
(計17名)

【会議録】 相談支援センターイノセント

<会議内容>

1. 性教育について

○徳島県内のこどもの入所施設で性問題が起きた事から、性教育や性問題の予防について各機関で取り組んでいる事や工夫している事等について話し合う。

▼福祉

・利用児の特性や発達状況により、性に対する興味や関心に差はあるが異性との距離が近かったり、実際に異性の身体に触れる事があった。個別に話をしたり、ケース会議で情報共有や支援方法について協議をしたが利用児に対して性教育は行っていない。(ワンハート穴吹、イノセント)

・入所児の場合、これまでの生活環境や障がい特性の影響からか、人と適切な距離を保てないこどもが多く、距離の近さは同性間でも見られる。交際をしているケースもあり、適切な関りが出来るよう指導している。生活の支援に関わっている支援者がどのように性教育を行っていけばいいのかわからない事があるので学校や関係者と連携を図っている。(池田学園)

▼教育

・小・中学校では保健体育の授業の中で性について取り上げている。中学校については半田病院の産婦人科医に依頼をして授業の中で話をしてもらっている。講演の内容については事前に打ち合わせを行っている。(つるぎ町教育委員会)

・人権教育の中で性について取り上げている。身体の変化等については保健体育や学級活動で実施しており、性については主に4年生で扱っている。(美馬市教育委員会)

・男女間でのトラブルは多い。生徒一人ひとり、理解度に差があるので個々に応じて時間をかけて指導している。障がい特性から実年齢と発達年齢に差があるケースがあり、支援学校では実年齢に応じた対応や指導を行っている。身だしなみも含めて、性教育の一環として全体に対して働きかけを行っている。性について一定数、理解できる生徒もいるが少人数や個別で対応をする方が理解を得やすい印象がある。(池田支援学校美馬分校)

▼医療

・美馬・三好地域の中学校・高校から個別に要請があり、産婦人科医か助産師が各施設を訪問して実施している。※利用については要相談。(半田病院)

▼行政

- ・三好市・東みよし町障がい者自立支援協議会のこども部会でも性教育について話を聞いたが、個別指導は共通していたが時間を作って性教育をしているところはなかった。また過去には性教育について取り上げようとしたが反対の意見があり、取り上げにくくなっていた。
- ・年齢不相応な性的な行動をとっている場合は被害に遭った可能性があるので注意が必要。定型発達の子どもでも被害を訴えにくいのが特に障がいがあるこどもは『おかしい』という事に気づきにくく、訴える事も難しい。最近は「今、正しいことを教えていかないと子どもたちを守れない。」という事に大人たちが気づいて、意識が変わってきているように感じる。
- ・入所施設では集団で生活を送っている事から通所施設より性問題の発生リスクが高い。職員がこども達に教えたり、外部講師を招いて性教育を行うなど問題意識を持って取り組んでいるところもある。加茂愛育園では目につきやすい所にイラスト付きで掲示をしており、年齢の低い幼児でも性について身近な事として当たり前で捉える事が出来る良い取り組みだと感じた。
- ・過去に児童養護施設で性問題が起きた際に集団性教育をシリーズで行った事があった。以降、必要に応じてその際に作成した教材をベースとして対象児の能力や理解力、伝えたい内容に応じて調整を行っている。(西部こども女性相談センター)

○意見交換

- ・職員の研修として実施出来ると各事業所で取り組みやすいかもしれない。
- ・性についてこども達にどう伝えたらいいのか難しいと感じる。
- ・職員の意識や価値観がそれぞれ違うのでまずは職員の意識の統一から必要と思う。
- ・支援学級の中でも性教育について話題に出ており、どこの学校でも困り感を持っているかもしれない。性教育の研修の場として市の特別支援連携協議会を活用できないだろうか。
- ・保護者から相談があった際にどう対応したらいいのか、返事に自信を持ってない事がある。
- ・アイリスに相談をした際に発達障がいの特性を踏まえた性に関するイラスト付きの本を紹介され、家庭でも活用しているケースがあった。
- ・性について本人と話をする際に家族から止められたことがあり、保護者への働きかけのタイミングも難しいと感じる事があった。各家庭の考え方に違いがある。
- ・『乳幼児期の性に関する情報提供（保健師や親子に関わる専門職のための手引き）』の中に子どもの性についての対応の仕方、伝え方等が分かりやすく掲載されている。
- ・今回のテレビの報道を通じて子ども達の性に対する意識も変わってきたように感じる。
- ・幼少期からの教育が大切でどの子どもにも必要な事。繰り返し考えていくテーマ。

*参照資料:「みない みせない さわらせない」
「気持ちよく安全な毎日のために」
「生命の安全教育」(動画教材有)
「子どもを守る言葉「同意」って何？」